

地域資源を活用した 集落ぐるみでの地域活性化

岐阜県：カワバタモロコ^{ほ ぜ ん す い し ん き ょ う ぎ か い}保全推進協議会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

地域の生物多様性の保全再生や、食をはじめとする豊かな地域資源を活用しての環境教育

【経緯】

土地改良事業による調査で絶滅危惧種のカワバタモロコの生息が確認され、地域住民を中心とした保全活動をするために、本組織が設立された。



カワバタモロコのキャラクター

○環境保全施設

【環境保全施設】水深確保の堰、魚道、植栽帯

【活用した事業等】経営体育成基盤整備事業

【保全対象生物】カワバタモロコ等

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 生きもの調査

①生きもの採集と観察

- ・ 専門家の指導の下、水路での生きもの採集と観察を年に3～4回実施

2. 環境教育活動の実施

①小中学生を対象としたワークショップの開催

- ・ 地元の環境というテーマについて、皆で意見を出し合うワークショップを実施

3. その他

①先進地への視察

- ・ 先進事例を学ぶために先進地を見学

②イベントによる環境保全啓発

- ・ あじさいまつりでの魚の展示や輪之内ふれあいフェスタでの魚の展示による環境保全啓発の実施

③水路の見回り

- ・ カワバタモロコの不正捕獲等の見回りの実施



生きもの採集



生きもの観察会

○継続した活動でこんな効果が！！



ワークショップの様子

■地域住民の生物多様性保全への意識向上

・町内の各区のうち、3～4 の区で地域住民が参加する生きもの観察会を実施するなど参加者が増加している。

■若い担い手の獲得

・町で任命する『カワバタモロコ保護員』（3名）に、40代の方が1名引き受けてくれている。

■地元農業、環境保全の大切さの実感

・小中学生を対象としたワークショップや連携機関大学の先生による講義によって、地元の環境学習をきっかけに環境保全の大切さを実感するきっかけとなっている。

○課題・苦勞した点

■参加者や活動の担い手不足

・農家の高齢化等により、活動の担い手不足がみとなっている。さらに参加者の確保が難しくなっている。

■生態系保全の経験不足

・生態系保全の経験がなく、生きものに関する正式な名称や生態系の保全の知識などが不足していて苦勞した。

○工夫した点

■参加者と将来の担い手育成

・生きもの観察会では、大学生に、生きものの魅力を語ってもらうことで、子ども達にも興味を持てる内容にしている。また、親世代にも一緒に参加してもらうことで、活動への関心を高めている。

■大学との連携

・岐阜大学の先生を講師として招くことで、生きもの及び保全に関する知識・経験不足を補っている。

○活動の特徴！！

■若い世代の担い手の獲得

・子ども達だけでなく、親世代にも参加してもらう活動を継続したことで、若い世代の担い手の獲得に進展しており、世代交代が進みつつある。



○団体の概要は？

- ・平成23年度に設立され、活動エリアは岐阜県安八郡輪之内町本戸地区（旧福東村辺り）である。
- ・任意団体として16名で活動している。
- ・年間運営費は補助金が100%となっている。
- ・年間活動日数は、約50日である。

